

タイトル： NHK『麒麟が来る』への期待

静かな正月が明け、初めての「コロナに封鎖されたお正月」となりました、寒中お見舞い申し上げます。
皆さま、どのような新年をお迎えになりましたでしょうか？
今年もよろしくお願ひいたします。

あえてコロナ話題から外れますが、今年は私の趣味的なお話から始めたいと存じます。
2020年分の NHK 大河ドラマ『麒麟が来る』は、最終回がまもなくです。よくぞ年を越して放映してくれた！とこの分野の NHK には感謝です。最終回が待ち遠しいですが、終わったらまた何か書きたいと思っています。

今回の「明智光秀」像は私的には大変賛同するものであります。一般の方々には聞いたこともない展開ですし、あのシーンこのシーン、いつもと違いすぎる！と思われていると想像します。
しかし、この新解釈のように見えるストーリーは、極めて事実に近いと思います。この作品は歴代の大河作品の中でトップクラスの出来栄えだと感じています。

実は、信頼できる歴史的事実を拾い上げて繋いでみると、このように展開しないと「辻褄」が合わないのです。
よくぞやってくれた！と思えるシナリオに、一人ひとりの俳優陣が猛烈に優れた演技をしています。
私は目が見えないので、名優たちの表情や仕草の工夫まではわからず残念至極ですが、聴こえてくるセリフのレベルの高さは尋常ではありません。様子を感じようと、ネット上のフリークさんたちの興奮した感想チャットで雰囲気を探っています。
少ない役者人数での深層心理劇となっていますから、かつてなく、各人物の心理的深みが滲み出ています。私は、スタンディングオベーションを既に贈りたい気持ちで一杯です！

視聴者の中には、これはただのひとつの歴史の見方だと思っている方も多いでしょう。が、それは違います。
私たちは永い間、すべての歴史娯楽ドラマで生き残った勝利者である「秀吉」が書いたフェイクニュース、ポストトゥールース、オルタナティブファクトを無批判に見せられてきたのです。
それは明治の国家建設にあたり秀吉をヒーローにするほうが都合が良かった、という軍事国家的な理由がありました。ここでは詳しく論じませんが……。

「麒麟が来る」が描く毎回のエピソードは「本能寺事件」の従来のフェイクを、ひとつひとつ、丹念に上手に潰してきたと思います。この作戦に気づく人は決して多くはないでしょう。
最終回を見(聴)終えたら、ゆっくり検証してみたいとワクワクしています。

では今年も皆さん、元気に腹に力を入れて、感染には科学的に立ち向かい、頑張ってください！！

本多伸芳